Vol.824　（月刊）毎月１日発行　Kenko Shinbun　2025年（令和７年）７月１日　無料

新健康協会では、新しい健康法を伝える「健康新聞」を毎月発行し、人間の持つ治癒力や適応力をお伝えしています。肉体的、精神的なことでお悩みの方もぜひ御一読ください。

健康新聞

発行所
発行人
新健康協会
〒813-0001
福岡市東区唐原６－７－１
TEL:092-661-1531
https://shinkenko.jp

次の御論文は、明主様（当協会の教祖）が、昭和二十三年に発表されたものであります。
世界平和と心身共に健全な人間作りを目指す活動に御理解を頂ければ幸甚です。

幸福

古往今来、如何なる人間といえども幸福を冀わぬ者はあるまい。幸福こそ実に人間最初にして最後の目標であるからである。幸福を得んがための学問であり修養であり努力であるにかかわらず、満足に掴み得る者は果たして幾人あるであろうか。大部分は幸福を獲得せんと思い続けつつ、かえって不幸の境遇にあり、解決の喜びを遂げらるる事なくして不帰の客となるというのが一般人の現実である。然らば幸福を得るという事は、そんなに難しいものであろうか、私は否と言いたいのである。

そもそも幸福とは、病気、貧乏、闘争、この三大問題の解決が基本である事は誰も知るところであるが、言うはやすく実現は難く、大抵は諦めるの余儀なきに至るのである。一切は原因があって結果がある。勿論幸福とても同様であるとすれば、その原因をまず知る事こそ問題解決の出発点であらねばならない。

従ってその原因に不明である以上、何程努力してもべてみよう。昔から言うところの善因善果、悪因悪果とは実に千古を貫く真理である。この理を知って他人を幸福にするために努力する事こそ、自分自身を幸福にする絶対的条件であらねばならない。ところが世の中には、他人の不幸を顧みずして自分だけが幸福になろうとする人間があまりにも多い事である。一方に不幸の種を蒔きつつ幸福の実を得ようとするのであるから、全く愚かな話である。丁度水を押すと手前のほうへ流れ、引くと先へ流れるのと同様である。

宗教が人間にとっていかに必要であるかは、この点にあるのである。即ちキリスト教の愛といい、仏教の慈悲というのも、他人を幸福にする利他的観念を植え付けるのが本義である。このような簡単な道理も人間はなか認識し難いものである。そこで神様や仏様は種々の教義を作り、心言行の規準を示し、見えざるものの存在を教え、取次者をして誠心誠意信仰に導くのであるが、一人の人間を救うにも容易なものではないのである。それも無理はない。一般人は見えないものは信じないという教育のもとに唯物思想に固まっているので、なかなか耳を傾けようとはしないのであって、迷夢に鎖され暗黒の中を彷徨い苦しみながら、結局帰らぬ旅路へ赴くのであるから、誠に儚い人生というべきである。

然るに、生あるうちに歓喜に浸り、法悦の境地に住し、長寿を得、真の幸福者たり得る方法がありとすれば、正にこの世は天国であり、生き甲斐があるというべきである。しかしながら言うであろう。このような苦の娑婆にいて、そんな幸福者たり得るはずがないと諦めている人が一般人の考えであろう。しかし、我等は断言する。右のごとき幸福者たり得る秘訣のある事で、それを御伝授する手びきとして、まずこの雑誌を提供するのである。

浄霊体験記

2ページ
3ページ

- 夫に抱えられ 支部に行った私…
- 入会して四十九年 救われた私の人生…
- 二年間悩んだ病が四日間で楽に…

浄霊によって病苦から救われると共に運命が向上し、幸せになられた方々の体験手記でございます。

リウマチ性の神経痛

47年前の奇跡

夫に抱えられ支部に行った私…

山鹿支部
長野節子（85）

私の家は農業をしていましたので、私も十八歳頃から、父母を助けて農業に従事するようになりました。女ばかりの五人姉妹だったため、力仕事でも父にならってしておりましたところ、肩甲骨の間あたりに鈍痛を感じるようになりました。すぐに近くの医者に診てもらったところ「リウマチ性の神経痛だろう」と言われて、十粒一五〇〇円もする高い薬を服用していました。高い薬なら早く治ると思っていましたが、痛みは良くなるどころか、返って悪くなっていきました。毎日の疲れは増えるばかりで体重は減ってしまい、腰痛と神経性の胃弱になり、薬と注射に明け暮れる日が続きました。そのため、車酔いはもちろんのこと、人混みの中では頭が痛くなり、吐き気を催すこともありました。化粧品の香りでも嫌な気分になり、ちょっと涙が出ただけでも頭痛になる等…数え上げればきりがないほどで、つらい毎日を送っていました。

苦悩の日々…

昭和三十四年、十九歳で夫を迎え、重労働はしなくなったものの背中や胸の下辺りの激痛は増すばかりで、体重も四十キロ足らずになりました。良いと聞けば様々な民間療法も試しましたが、一向に治る気配もありませんでした。それどころか、昭和四十年、二十五歳の時には箸を持つことさえままならず、困り果てていました。

そんな時、熊本県の阿蘇の灸が良いと聞き、早速試しに行きましたが、一時的に良くなるだけで、一年後には「痛い痛いの生活」に逆戻りしてしまいました。

その後も苦悩の日々は続きました。昭和四十三年に父が他界しまして、昭和四十七年には一人息子が交通事故で亡くなり、暗く悲しい日々が続きました。気を紛らわすために、前にも増して働きましたら、精神的にも肉体的にも疲労が酷くなり、激痛に悩みながらの生活で、夫や母に助けてもらう日々でした。

この頃、私の様子を知った従姉妹が新健康協会の会員だったため、私の家に来ては時々浄霊をしてくれました。

しかし、様々な治療をしても良くならないのに、手をかざしただけで体が楽になるとは思えず、八年くらいは信じられませんでした。

どうにか良くなりたい…

昭和五十三年二月、私が三十八歳の時に交通事故を起こしてしまいました。ただでさえ体調が悪かったのに無茶をして運転してしまい、事故に繋がってしまいました。私の車と相手方の車で合計七人乗車していましたが、負傷者は一人もなく済みましたが、私は数日経って寝返りが出来なくなり、遂には入院することになりました。微熱は続き、頭はふらつき、肩は凝るし、手足はシビレている状態で、どうしようもない状態でした。

私の様子を見た知り合いの芹川さんが、新健康協会の会員でもあったため「支部に行ってみたら…」と勧めてくれました。芹川さんは、以前、首にしこりが出来た時、病院で手術をするようになっていたのですが、浄霊を受けたことで手術をせずに済んだということを聞いていましたので、私も一度支部に行ってみようか…と思いました。そして昭和五十三年三月末に病院を自主退院し、夫に抱きかかえられるようにして初めて山鹿支部へ行き浄霊を受けました。

長年の痛みが消え…多くのことで救われた…

初めて支部で浄霊を受けた後、支部の方から「どうですか?」と言われ、自分で体のいろんなところに触れてみたり、動かしてみたりしましたが、先程まで激痛だったことが嘘のように痛くありませんでした。本当に信じられないくらい不思議で、その驚きと嬉しさは言葉では表現出来ない程です。私は心身共に軽くなり、天にも昇るような気持ちで帰宅出来ました。するとその日の午後には体を動かして仕事が出来、翌日には農作業もどんどん出来るようになりました。本当にびっくりしました。

その後も奇跡続きで、折れるのではないだろうかと思う程の腰の痛みも何処へやら…というような状態で、毎日感謝しかありませんでした。この時の感激は、四十七年経った今でも忘れることはありません。

この感激もありまして、昭和五十三年四月二十八日に私が入会し、夫と娘は約四ヵ月後の八月十六日に入会しました。

入会後も多くの奇跡がありました。

入会した年の六月の農繁期に、麦の収納で四十キロ入りの袋を、何度も車まで運ぶことが出来ました。一袋、二袋と、どこにこんな力があったのでしょうか…不思議でなりません。

また、苗床の準備の時に、機械を使って田んぼの整地中に、水田の中で古釘を素足で踏みましたが、その時も浄霊を五分くらいすると痛みがなくなりましたので、そのまま仕事を続けることが出来ました。そして、一町三反（約三九〇〇坪）の田んぼを、機械を使って田植えを済ませることが出来ました。私の今までの病状を知っておられる隣近所の方々は、びっくりしていました。

その他にも数え上げればキリがないくらい多くのことが浄霊で救われました。薬を服用したり、注射を打ったりしなくても元気でいられるのですから、こんなに素晴らしいことはありません。浄霊の話を聞いた時は「浄霊で良くなるなんてあり得ない…」と八年間も思い続けていた私が心身共に救われました。是非多くの方にこの事実を知って頂きたいと思い、体験談を書かせて頂きました。

明主様、誠に有難うございました。

（熊本県山鹿市）

浄化作用

人間には体内の毒素（＝不純物）を排除して健康を促進しようとする働きがあります。例えばカゼの場合、体内にあってはならない毒素を溶かすために熱が出ます。溶けた毒素が鼻水やタンとなって排出されるので体の中が掃除され、清浄化されます。

その毒素排除の過程を「浄化作用」と言います。浄化作用は、熱や痛みを伴うので苦しみがありますが、体を健康にする大切な清掃作用でもあるのです。

アキレス腱断裂・卵巣嚢腫

入会して四十九年 救われた私の人生…

飯塚支部
林（はやし）トシエ（71）

私は昭和五十一年十一月、夫との出会いをきっかけに浄霊を知りました。それまでは浄霊を知らなかったので、様々な治療を受けてきました。

昭和四十一年、私が十二歳の時、急にお腹が痛くなり病院に駆け込むと「盲腸炎」ということで、すぐに手術を受け、盲腸を取りました。これでお腹の痛みは良くなったのですが、術後から不安神経症のような状態になり、恐怖を感じて呼吸が出来にくくなる…という症状が出るようになりました。動悸がして体が冷たくなるような感じもあり、時にはパニックにもなっていました。そのため、高校生の時には体育の授業を見学することも多々ありました。この状態は二十歳頃まで続きました。

すると二十歳の時に、今度は腎臓結石になりました。病院に行くと、手術をして腎臓を取り除くしかない…ということで、右の腎臓を摘出しました。腎臓が片方だけになった…ということもあって、その時から必要以上に薬は飲まないようにしよう…と心の中で思っていました。

そして二年後の昭和五十一年、二十二歳の時に夫と知り合ったのですが、夫が新健康協会の会員だったため、その時に初めて協会のことと、浄霊のことを聞きました。

その後、実際に飯塚支部に行き浄霊を体験してみると、痛みが楽になる等、体が楽になっていきましたので、浄霊を続けるようになりました。もっと早く浄霊を知っていたら、腎臓摘出の手術はせずに済んだかも知れない…と涙が出ることもありました。

そして、昭和五十一年十一月に結婚したことをきっかけに、その一ヵ月後の十二月二日に入会しました。入会後、現在までの四十九年間、浄霊で様々なことから救われてきました。

アキレス腱断裂も治る…

平成三年、三十七歳の時、私はアキレス腱を断裂してしまいました。町内の地区対抗バレーボールに参加した時のことです。プレー中、ボールをレシーブしようと右足を前に出した途端、後ろの左足首の筋をビリビリと引き裂かれたような感覚になりました。すると、誰かに思い切り蹴られたような痛みが走り、私はコートに座り込み、動けなくなりました。

幸い弟夫婦がその場に居合わせたので、自宅まで送ってもらいました。勤務中だった夫はすぐに帰宅してくれたので、一緒に飯塚支部まで行き、浄霊を受けました。

その後病院に行き診察を受けると、医師は「アキレス腱が断裂しているので、すぐに手術を受けるように…」と勧めました。しかし、私は手術をしたくなかったので、そう伝えると、医師から「こんな激しい断裂では、半年後に腱が繋がったとしても歩くことが出来ないばかりか、立てなくなるかもしれない」と言われました。

しかし、私は浄霊で様々なことから救われていましたので、アキレス腱も浄霊で良くなる…との思いで、その後も支部に戻って浄霊を受けました。すると、その夜は不思議と痛みもなく、いつもと変わりなく眠ることが出来ました。

毎日支部や家庭で浄霊を受けたおかげで、これといった痛みもなく、ケガをしてから十九日目には車を運転出来るようになり、一ヵ月後には松葉杖も要らなくなりました。そうして少しずつ歩けるようになったので、再び病院で診察を受けたところ、医師は「腱が繋がっているので無理をしないように…」と言い、不思議そうな顔をしていました。医師が「歩くことがばかりか、立てなくなるかも…」と言っていた半年後には再びバレーコートに戻り、レシーブが出来るようになっていました。本当に有難かったです。

卵巣のう腫も良くなる…

平成八年、四十二歳の時、職場の健康診断を受けると「卵巣のう腫」と診断され、この時も「早く手術しないと卵巣が破裂します」と言われましたが、毎日浄霊を受けるようにしましたが、塊が大きくなり始めた頃は、夜休むと腰やお腹が痛み、うんうんと呻（うめ）いて休むこともありました。その後十年間程、お腹に大きな塊がありましたが、それも浄霊のおかげでしょう、生活に支障なく、大好きなスポーツも出来ていました。

おかげ様で五十二歳を過ぎた頃には、いつの間にか塊がなくなり、何事もなく良くなりました。手術も何もせず、自然な形で良くなり、驚くとともに心から感謝しました。

現在もパートで働くことが出来るほど元気に日々を過ごすことが出来ています。これもひとえに明主様のおかげと、心から感謝しております。是非一人でも多くの人に、この浄霊を体験して頂きたいと思います。

明主様、誠に有難うございました。

（福岡県田川郡）

ネパール

背中の痛み・不眠

二年間悩んだ病が 四日間で楽に…

ナランガー支部
カラデャル・ティミルシナ（77）

私は五年前の七十二歳頃から、痔や背中の痛み、不眠等に悩まされていました。病院に行き、多くの薬や漢方薬を服用しましたが治らず、その後にラジウム治療も試しましたが、一向に改善しませんでした。

それから二年後の十月、七十四歳の時にナランガーで開催されたお祭りに行くと、会場の近くにあった「新健康協会」の看板が目に止まりました。「新しい健康法の支部…」と書かれていましたが、最初は気にもしていませんでした。

その夜、祭りから帰ると体調が辛くなったので、薬を服用したのですが治まらず、ふと昼間に目にした新健康協会の看板を思い出しました。

翌日、私はすぐに新健康協会のナランガー支部へ行きました。するとビナさん（支部長）が、浄霊について教えてくれて、健康新聞もくれました。健康新聞を読むと、私も良くなるのではないか…との希望が持てましたので、支部に行くようにしました。

すると驚いたことに、四日間浄霊を受けただけで痛みがなくなりました。不眠も解消され、夜中に何度もトイレに行っていたのですが、浄霊を受けた後からは数回で済むようになりました。

その後も浄霊を続けたことで、徐々に薬も飲まなくて済むようになりました。私は、明主様のおかげで体が楽になり、健康で幸せな生活を過ごすことが出来ています。

（ネパール・スリナガル）

自然農法

自然農法とは自然を尊び、愛情をかけて育てることで、自然力を生かす農法です。

自然農法体験談

佐賀支部
倉谷清子（くらたにきよこ）（82）

私が自然農法を知ったのは今から57年前になります。

当時25歳だった私は夫の実家に嫁ぎました。佐賀県の背振山の麓で、自然豊かなところでした。私が自然農法を知ったのも、この時でした。義父は、夫が2歳の時に新健康協会を知り、自然農法も知ったそうで、その頃から実践していたそうです。私は自然農法で作物が出来るのかな…という疑問もありましたが、その頃は仕事勤めや子育てに追われ、農作業はしていませんでした。

◇

私は32歳の時、高熱が出たので病院に行き、薬を服用したのですが良くならず、死の一歩手前という状態になりました。その時、浄霊を受けたのですが、浄霊で徐々に回復し、「これで救われる！」と感じました。それから毎日浄霊を受け、1年後には外出出来るまでになり、3年後には完全に良くなりました。

浄霊に出会うことがなかったら、私の命はなかったと思います。

その頃から実家では農作業の手伝いもするようになっていました。そして私が主となって自然農法をはじめるようになったのは62歳の時です。

義父が長年自然農法をしていたこともあり、畑の土はとてもふかふかで作物が育ちやすい環境が整っていました。しかし最初の頃は、日あたりや温度、水はけの状態等で、どの場所にどの野菜を植えたら良いのかを模索しました。1年に1回もしくは2回しか育てることが出来ませんので、種植えの時から欠かさずしっかりと記録をとり、野菜たちが望む場所を探し続けました。そして現在では、どの場所をどの野菜が好むかが分かるようになり、毎年元気に育ってくれています。栗の木も50年以上経っており、毎年秋においしい実を付けてくれます。畑は1年を通して、大根、里芋、白菜、キャベツ、レタス、ほうれん草等、40種類以上の野菜が出来、毎日感謝するばかりです。私はこうして出来た野菜の種を保管し、ここの地域にあったものを作り続けていきたいと考え、「種から健康に」ということを目標に頑張っています。

これからも土を「お土」として感謝し、大切にしながら、いつまでも安心して食べられる、生命力あふれたおいしい野菜作りをしていきたいと思います。

美の世界

美によって人間の情操を高め、生活を豊かにし、人生を楽しく意義あるものにすることができます。

西川祐信（にしかわすけのぶ）《文読み美人立姿図（ふみよびじんたちすがたず）》

浮世絵と聞いてイメージするのは江戸ですが、十八世紀後半には江戸絵に対して「上方絵」とよばれる浮世絵がありました。これはおもに大坂や京都でつくられた役者絵を中心とする版画で、美化せず人間味のある描写が特徴とされます。その独特な人物表現は関西の「名を捨てて実を取る」気質から生まれたと説明されることもあるほか、同時代の京都に伊藤若冲や円山応挙といった写生を重んじる絵師たちがいることなどからも、関西には現実に即した美意識が育まれていたと推察できそうです。そして今回紹介する西川祐信は、それらの少し前、元禄期から寛永にかけて活躍した京都の浮世絵師。やはり現実味のある典雅な作風で、奥村政信や次世代の鈴木春信など江戸の絵師たちにも大きな影響を与えました。

図案集のような雛形本をはじめ、物語本や春本にいたるまで、絵本の挿絵を数多く手がけていた祐信は、あらゆる階層の女性風俗を描いた享保八（一七二三）年の『百人女郎品定』で、その名を江戸にまで知らしめます。また肉筆の一枚絵にも優れ、本作のようにふっくらとして丸みのある顔立ちは目元に至るまでとても自然で、様式化されてはいるものの誇張のない生々しさがあります。湯上がりにも見えるくらいに着物をしどけなくゆるめてリラックスした様子の遊女は、想い人からのものでしょうか、手紙に目を落とし、心は送り主のもとにあるような風情です。

祐信の特質としてはもうひとつ、大和絵の伝統を意識するかのような、古典世界への親しさも指摘されています。ここに描かれている文＝手紙は当時、遊女にとって男性客をつなぎとめるために欠かせない営業ツールとなっていましたが、もともと男女の駆け引きで手紙をやりとりすることは平安時代の恋の物語にも見立てられるふるまいです。届いた手紙を読むという、感情の交差する艶っぽい場面であるだけでなく、雅やかな世界を想起させる情景だからこそ画題となったのでしょう。しかも女性の表情を読み取ろうとしたくなるほど、一人の女性の立ち姿をクローズアップして切り取った本作には、伝統に立脚しつつ当世のかたちをありのままに映し出そうとする祐信の姿勢が表れているように思います。

解説　松田愛子（まつだあいこ）

晴明会館

「ゆめのうき世に」前期展
期間：令和7年6月3日（火）～12月13日（土）
※晴明会館お問い合わせ☎（092）661－1535

健康新聞についてのお問い合わせは（092）661－1531まで